

島根の多彩な医師の働き方
キャリアを支援します！

えんネット

SUPPORT MAGAZINE 2023 NO. 10

発行：島根大学医学部地域医療支援学講座
島根県・しまね地域医療支援センターから財政支援を受けています。



Special Discussion

“医療の力で中山間部のコミュニティを支える医師たち”

雲南市立病院

イベントなど“えんネット”の取り組み紹介

●ドクターキャリア形成特別講義

医学生のうちから、ワークライフバランス・キャリア形成について考えることを目的に平成26年度から臨床実習入門として男女共同参画講義を行っています。
広島大学医学部附属医学教育センター教授 蓮沼直子先生をお招きし、医学部4年生を対象に行っています。地域医療支援学講座は、学生たちがキャリアを大切に働き続けるために、「えんネット」の取り組みや支援内容についても周知します。

●ワークライフバランスセミナー

令和5年度は、株式会社ジョコネ。代表取締役の北奈央子先生にお話しいただきました。

●えんネット交流会

年2回、女性医師や学生が集まり、働き方などについて楽しく話し合っています。

●復職支援

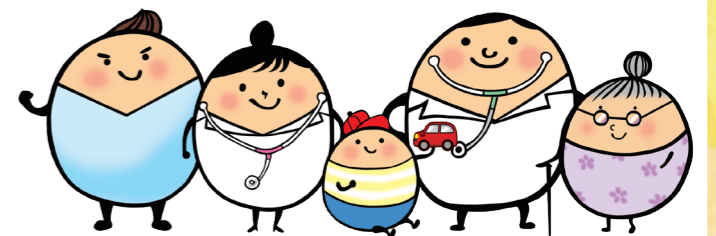
ライブイベント、退職後の相談も受け付けています。



えんネット交流会

えんネット

えんネットではキャリア支援から託児付きセミナーの開催、学生教育までさまざまな支援を積極的に行っています。



キャリア支援 両立支援



- 相談窓口
- 就労環境改善の取り組み
- 託児付きセミナー
- 交流会 など

育児・介護支援 情報提供



- 県内病院就労支援
- 県内自治体保育支援
- 支援情報へのリンク

学生教育



- キャリアモデル実習
- キャリア教育
- キャリアセミナー

<https://www.en-net.jp/>

えんネット

検索

連携団体

- しまね地域医療支援センター
- 島根県 赤ひげバンク
- 島根県医師会
- 島根大学 ダイバーシティ推進室
- 島根大学医学部附属病院
ワークライフバランス支援室

えんネット

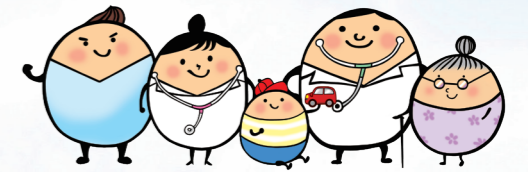
島根大学医学部地域医療支援学講座内

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

TEL & FAX : 0853-20-2396 E-mail : en-net@med.shimane-u.ac.jp



発行 / えんネット
2023年11月



えんネット
MAGAZINE 2023

医療の力で中山間部の「コミュニティを支える医師たち」

今回取材したのは島根県東部にある雲南市立病院。地域の中核病院として、救急から慢性期、在宅医療までをトータルで支えています。医師不足が深刻な中山間部にありながら、若い医師たちが集まり、いきいきと働いている姿が印象的です。そこには「地域のために」という責任感だけでなく、幅広い疾患を診ることで医師として成長しながら、患者さんやご家族からのニーズに応えていくことの充実感があるようです。

座談会の
ファシリテーター

島根大学医学部
地域医療支援学講座 助教

堀田 優希江

ほった ゆきえ

2009年島根大学医学部卒業、島根大学の耳鼻咽喉科での勤務を経て、2020年から現職。3児の母。「えんネット」相談窓口を担当。ワークライフバランスに関する調査研究、復職支援、女性医師支援などを行う。

堀田…今日は雲南市立病院で働く医師・歯科医師の皆さんにお集まりいただきました。病院に来てみて、若い先生方がたくさんいらっしやる印象を受けました。

の数もまだ少なく、平均年齢も高かったです。卒後10年以上の私が若いくらいでした。今は、堀西先生、内藤（聖）先生、内藤祐先生もそうですが、医師歴4、5年くらいの先生が増えています。

ずいろいろな診てくれる。そうした土壌があるのは、当院ならではのですね。

と思います。ここでは「ちょっと診てもらっていいですか？」といつでも聞けます。例えば、他科の先生がどうしてもその治療を選択したのか、疑問に思ったことを質問することで、自分の診療にも生かれます。

島根大学医学部
地域医療支援学講座 教授

佐野 千晶

さの ちあき

1994年島根医科大学卒業、微生物学などを経て、現職。2人の母。

井上…ここ数年で医師の数はとても増えています。若い世代の先生方も多いので、院内は元気の雰囲気があります。

堀田…病院の魅力はどんなところですか？

私は一人で泌尿器科を診ているので、他科の先生たちがフォローしてくださるのが非常に助かっています。どの診療科の先生たちも自分の専門に偏らずに

では、普段から外科の先生たちと相談することがよくあります。皆さん優しく教えてくれますし、診療科ごとの垣根が全然ないと感じます。

井上…はい。赴任して5年半になります。当院に来たばかりの頃は医師

の先生たちも自分の専門に偏らずに

の先生たちも自分の専門に偏らずに

の先生たちも自分の専門に偏らずに



小池：歯科口腔外科の診療をしていて、特に関わりが多いのは隣接臓器である耳鼻咽喉科や皮膚科、眼科の先生方です。外来や医局で患者さんの相談やディスカッションをしたりと、一人の患者さんに対して皆で診断や治療ができており、患者さんのためになつていくという実感があります。

堀田：この病院ならではの診療の特徴はありますか？

内藤祐：地域ケア科には膠原病の専門医を持つている先生もいらっしゃるの、通常であれば大きな病院に送るような症例でも、ここで診ることが出来ます。地元で診られることで、ご家族も面会に来やすく、とても感謝されますね。

堀田：専門的な疾患でも地域で診てもらえるのは、患者さんやご家族にとつて嬉しいですね。

内藤祐：そう思います。もちろん専門性や設備の面から、ここでは診られない症例もありますが、それ以外はなるべく地域で完結できるようにしたいと、スタッフみんなで頑張っています。

堀西：僕が主治医を担当した80代の患者さんの治療で、とて

を行い、英文の原著論文にまとめました。佐野先生にもサポートいただいています。

佐野：臨床が研究に結びついているよ。素晴らしいです。

内藤祐：「臨床・研究・教育」を大事にしていますよね。地域ならではの温かさがあって、教育もしやすい環境です。患者さんが優しく、「こんな心臓でよければいくらでも聞かせてあげるよ」と言われることも。若い医師でもほとんど診療をさせてもらえます。

堀田：それだけ医師の皆さんが、地域の方たちから信頼されているんですね。学生実習でも人気ですよ。

内藤祐：教育に力を入れるから学生さんたちが集まり、その子たちが専攻医として病院に戻ってきてくれます。さらに専攻医が指導医になり、雲南以外の地域でも活躍すれば、次は島根全域へとネットワークが広がっていくのではないのでしょうか。

堀田：内藤先生はご夫婦で勤務されています。祐美先生は雲南にいらして2年、聖記先生は3カ月ですが、働きやすさはいかがですか？

も印象に残っているケースがありました。リウマチ性血管炎という膠原病疾患で、人工呼吸器がついている患者さんだったので、血液透析が必要になったときには泌尿器科で診ていただき、腸閉塞になったときには外科に手術を依頼。さらに骨折したときには整形外科で処置をお願いしました。

堀田：すごい連携ですね。

堀西：はい。本来だったら大学病院で診てもらおうような難しいケースだったと思いますが、各診療科の医師たちと連携がうまく取れたことで、ここで診ることができました。地域ケア科で訪問診療をしながら最期はご自宅で亡くなられて。ご家族からはとても感謝されました。

岸本：私は当院に赴任して3年になります。以前勤務していた三次救急病院と比べると、圧倒的に患者さんの年齢層が高いです。

平均年齢はプラス10歳くらい。80代の患者さんでも若いと感じます。高齢の患者さんは手術のために入院すると、すぐにはご自宅に帰れない方がほとんどなので、リハビリや社会福祉とセットで考える必要があります。

堀田：退院後のこともケアして

内藤祐：とても働きやすいですね。内科は人数が多いこともあり、チーム制をとっています。急遽、子どもが熱を出して休まなければならなくなつたときも、チームの人にカバーしてもらえます。

これまで「休むのが申し訳ない」という気持ちがあったのですが、子育てをしている同僚が増えてきたので、「大変だよ」と理解してもらえるのが嬉しいですね。

内藤聖：男性、女性ともに、子育てを頑張っている医師が多いですね。

堀田：お休みはとりやすいですか？

内藤聖：外科では土日が当番制になったので、毎週金曜に外科の入院患者さんを全員診て、週末に何かあれば当番の医師にお願いするという体制をとっています。当番以外の医師は土日休めるようになりました。

内藤祐：ここで一緒に働くことで、夫は土日に病院に行くことが半日はつぶれていたので、今は気になる患者さんだけをパッと診て30分くらいで帰ってくることも。育児を一人ですると、夫と二人でするのでは全然違うので、私も助かっています。

岸本：これまでは外科医が毎日病院に行くというのが当たり前でしたよね。私がここに赴任し

いかなければならないのですね。

岸本：その点、当院では、地域ケア科の先生たちが訪問診療で最後まで診てくれることも多く、患者さんやご家族の要望に応えられています。本当の地域医療を実践していると感じますね。

堀田：小池先生は附属の掛合診療所にも行かれていたそうですね。

小池：はい。雲南市立病院からは車で30分くらい、さらに中山間部に入ったところにある診療所です。よく2025年問題や2040年問題が取り上げられますが、そうした高齢化率のパーセンテージをつくりに超えている地域です。ある意味、雲南圏域は、将来日本の大部分が直面するであろう社会構造の先駆けとして、地域医療のモデル地域と言えるのではないのでしょうか。

佐野：皆さん「地域医療日本一を目指します」と書かれたバッジをつけていらつしゃいますね。

井上：それが地域の基幹病院である当院が目指しているところ。地域ケア科の取り組みもそうですし、地域の開業医院の先生たちとの関係性を大事にしているのもそのためです。

た当時は主治医制で、自分の患者さんは自分で診るといって体制でした。妊娠・出産を経て、私生活がガラッと変わったことで、主治医制だとフルで対応できないもどかしさを感じることもありました。

堀田：外科のイメージはそうですよ。

岸本：でも、内藤先生ご夫婦のように育児をされている先生たちが赴任されたことで、働き方も少しずつ変わりました。一人で抱えるのではなく、チームで診ていく。土日は待機している当番の医師にお願いできるので、だいぶ楽になりました。

堀田：まだ多くの病院では、外科医は土日も病院に行かなければならないところがほとんどではないでしょうか。

岸本：そう思います。だから、勤務体制が変わったときには、「外科でもこんな働き方ができるんだ」とうれしい驚きがありました。

堀田：井上先生は一人で泌尿器科を診ていらつしゃいますが、働き方はいかがですか？

井上：僕の場合も基本的に土日は休めますね。もちろん緊急処置が必要などときは行きますが、「できるだけ呼ばなくていいように」と他の先生たちが気遣ってくれているのを感じます。何か用事があって休みたいとき

岸本：今は比較的重症患者さんもここで診られるようになり、当院への紹介が増えています。私たちもできるだけ断らないようにしたいと思っています。紹介状のお返事をすぐに書くなど、地域の先生方が紹介しやすい病院になるための努力をしています。

井上：今後はそうした重症患者さんも含めて、もっとここで診ていく体制を整えていく必要がありますね。それが「地域医療日本一」にもつながると考えています。

堀田：地域医療に関しては、研究にも力を入れていらつしゃいますよね。

小池：総合病院でありながら、しっかりと研究に取り組む環境があるのは非常に珍しいのではないのでしょうか。学術的な知見の発信に対して、病院全体がとても積極的な姿勢をとっています。

堀田：小池先生も、歯科分野で研究をされているとか。

小池：はい。地域ケア科診療科部長の太田龍一先生から「一緒に研究をしませんか」と声を掛けていただいたんです。それで「ぜひやりましょう」と。地域の病院だからこそ発信できる歯科口腔領域に関する研究

に、改まって「すみません」とお願いしなくても、気軽に言い合える関係性です。

岸本：上の先生たちに、ものすごく理解があつて、何でも相談しやすいですよ。

小池：私もここに勤務して、自分の子どもとちゃんと向き合えるようになりQOLが上がりました。本来、医師の働き方はそうあるべきだと感じています。

堀田：やはり医師の働き方を変えてかないといけないですよ。内藤先生ご夫婦は、雲南で子育てをされていますが、休日はどうに過ごしていますか？

内藤祐：子どもと一緒に丸子山公園に出かけることが多いですね。山の傾斜を使った長い滑り台があつて、遊具もあります。

内藤聖：あとは奥出雲葡萄園の「庭カフェ」にもよく行きます。芝生で子どもが走り回れるし、ピザも美味しいのでおすすめです！

堀田：最後に雲南での医療に興味を持っている方たちに向けて、メッセージをお願いします。

井上：当院の泌尿器科では、2人以上で手掛けるような難しい手術は

「地域のニーズに応えて、当院で完結する医療を目指していきたい」

泌尿器科 診療科部長
井上 圭太 先生
いのうえ けいた
島根大学(2007年卒)

「同僚の若い世代の医師たちからは、いつもたくさんの刺激をもらっています」

地域ケア科
堀西 祐多 先生
ほりにし ゆうた
島根大学(2020年卒)

「多くの症例を経験しながら休みもとれる。メリハリがある働き方が魅力です」

外科
内藤 聖記 先生
ないとう まさき
島根大学(2019年卒)

「優しい患者さんが多いので、診療でもこの地域の温かさを感じられます」

地域ケア科
内藤 祐美 先生
ないとう ゆみ
島根大学(2019年卒)

「大学病院と行き来しながら手術手技を勉強しています」

外科 外科医長
岸本 彩奈 先生
きしもと あやな
島根大学(2014年卒)

「臨床・研究・教育にプラスして地域貢献も実践できる環境です」

歯科口腔外科 診療科部長
小池 尚史 先生
こいけ たかし
福岡歯科大学(2010年卒)

まるで時間が止まっていたような 心安らく日本の原風景。



一般社団法人 雲南市観光協会 <https://www.unnan-kankou.jp>

日本古来の製鉄法
「たたら製鉄」で繁栄した地域。
神話や伝説が多く残る、
古い歴史を持つまち。

Unnan
雲南市

島根大学医学部 地域医療支援学講座

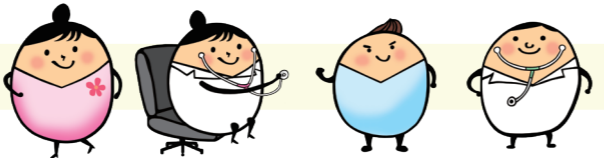
えんネット



しまね地域医療支援センターの委託を受け、平成26年度より、島根大学医学部地域医療支援学講座内に両立支援のための相談窓口『えんネット』が設立されました。出産・育児・介護などのライフイベントで働き方に悩みを抱えている方々がキャリアを継続できるよう支援いたします。また、「働きたい」という意識を育てるために、学生時代からのキャリア教育や、すべての医師の働きやすい職場をめざした、就労環境支援、託児などに考慮した両立支援を行っていきます。

相談窓口

えんネットでは、現在の働き方に悩みを抱える方のための相談窓口を設置しています。個々に応じた復職への相談も受け付けています。専門科に応じた対応が必要な場合は、支援担当員としてご協力いただく、専門科の先生に相談することも可能です。また、復職相談については学内外と連携をとりながら、段階的な支援を行っています。加えて、女子学生の女性特有の相談に対しても、女性スタッフが対応しています。どんなことでもお気軽に相談してください。



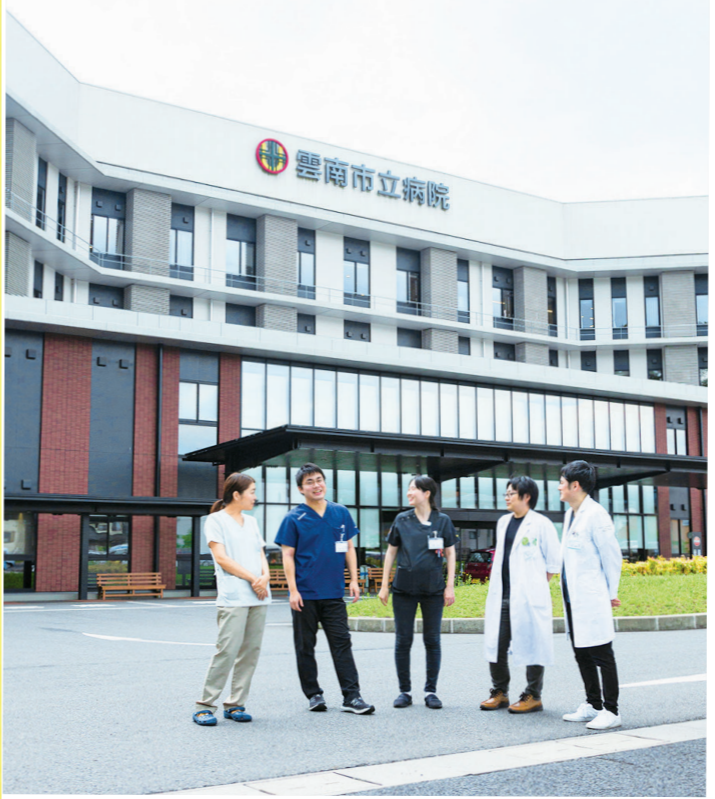
セミナーなどに託児をつけます

子育て中の医師も学びやすいよう、セミナーなどに託児をつける支援を行っています。また、島根大学医学部附属病院 クリニカルスキルアップセンターにて、シミュレーショントレーニングの託児付受講もできます。



医師密着型実習

医師密着型実習とは、島根でがんばる医師のもとで実習を行い、自分の将来像を探すことを目的にした実習です。実習では、医師の一日の始まりから終わりまで密着し、仕事以外の保育園の送迎や家事などの生活場面についても見学させていただきます。参加した学生さんからは「先生の結婚・出産の頃のお話も伺い、やりたいことをあきらめずに継続されている強さに自分も勇気ができました」といった意見がありました。



雲南での地域医療の経験が 医師としての成長に

できませんが、地域からたくさんの方々が集まってくるので、さまざまな治療を経験できます。緊急処置や性感染症、結石、悪性腫瘍から透析治療まで幅広く診ることで、医師としての成長できる環境です。

岸本：外科では、頻度が少ない難易度の高い手術をするときには、大学病院から専門医の先生たちに来ていただいて手術してもらったこともありますし、逆に私たちが定期的に手術を見て行って学ぶこともできます。地域医療を実践しつつ、

自分の手技や専門性を磨いていきたいと思う人にもおすすめです。小池：当院は地域の総合病院ですが、大学のように研究や教育にも力を入れており、さらに日本全国のみならず世界に向けて発信することを、病院全体で取り組んでいます。歯科医師の私から見ても、そうした経験が医師の皆さんのキャリアに必ず生かされるのではないかと思います。

内藤聖：現在、外科の専門研修を受けていますが、指導体制がしっかりしているのが魅力です。赴任するまでは手術症例が少ないイメージを持っていましたが、働いてみるとものすごく多くて、執刀する機会もた

くさんあります。

内藤祐：内科の患者さんを外来から入院、そして退院後もフォローできる病院は限られています。ここではそれが経験できる環境です。また、ベッドサイドを大切にしている、一日に何回も患者さんの診察に行きます。そうした良さは、ここでの診療を体感してもらえばすぐに分かってもらえると思うので、ぜひ見学に来てほしいです。

堀西：僕がこの病院の好きなのところは、働いている医師やコメディカルが「この地域が好き」だと伝わってくることです。多職種なスタッフとも楽しくディスカッションをしながら、患者さんのことを一緒に診ています。若い医師も多く、元気な雰囲気がある病院なので、ぜひこの雰囲気味わってほしいなと思います。

佐野：先生方の地域医療にける思いを伺って、「日本一の地域医療を目指す」というのが決まれば夢物語ではなく、本当に実現するのではないかなという気がしてきました。私たちも応援していきたいです。

堀田：ぜひ全国に向けて、地域医療の「雲南モデル」を広めていってほしいですね。今日は貴重なお話をありがとうございました！

雲南市立病院

HOSPITAL DATA



雲南市立病院
院長



雲南市立病院
院長
西 英明 先生
にし ひであき
1986年島根医科大学(現:島根大学)医学部卒業。同大学医学部附属病院整形外科、出雲市立総合医療センター副院長、雲南市立病院統轄副院長などを経て、2019年から現職。

雲南市立病院
〒699-1221 島根県雲南市大東町飯田96-1
TEL 0854-47-7500(代) FAX 0854-47-7501
<https://unnan-hp.jp/>